

(様式1)

平成29年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1)学校教育目標	児童生徒一人一人の能力や特性等に応じて、人間として調和のとれた育成をめざすとともに、自立と社会参加の達成を図る。
(2)現状と課題	小学部22名、中学部21名、高等部50名、計93名が在籍し、そのうち20名が隣接するはまゆり学園に在園している。認可学級は23学級であるが、指導学級として編成している20学級のうち11学級が重複学級となっており、障害の重度重複、多様化が進んでいるほか、高等部在籍数も増加傾向にあることから、児童生徒一人一人に応じた指導の更なる充実が求められている。 むつ下北地区唯一の特別支援学校であることから、就学や教育などに関する学校等や保育所、市町村教育委員会への支援のほか、移行支援に関する施設や事業所との連携について、更なる充実が求められている。
(3)重点目標	1 児童生徒一人一人のニーズに応じた指導の展開 2 キャリア教育の視点を生かした指導の充実 3 地域との連携による特別支援教育の推進 4 交流及び共同学習の推進 5 生涯スポーツの振興
(4)結果の公表	・平成30年2月2日(金)に開催した参観日において、学校評価の結果の説明及び要望事項への回答を行った。 ・平成30年2月7日(水)に開催した学校評議員会において、教職員による自己評価と保護者アンケートの結果を説明するとともに、学校関係者評価を行った。 ・来年度4月に行われるPTA総会において、平成29年度学校評価結果報告書等の説明を行うとともに、同内容を学校ホームページにて公開する。

学校整理番号	特19
学 校 名	青森県立むつ養護学校
対象障害種別	知的・肢体
自己評価実施日	平成30年1月17日(水)
学校関係者評価実施日	平成30年2月7日(水)

(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成
・学校評議員6名(施設関係者3名、企業関係者1名、元PTA1名、地域住民1名) ・保護者(PTA会長)1名 ・計7名

自 己 評 価					学校関係者評価	(10)次年度への課題と改善策
番号	(5)評価項目	(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の展開	①年3回の研究授業及び授業検討会の実施 ②複数配置された学校看護師による医療的ケアの実施	おおむね達成 ・全教職員による取組により、成果の共有が授業改善につながっている。 ・校内体制の整備により、学校行事等が保護者の理解のもと円滑に実施された。	B	児童生徒個々に異なる障害の特性や状態に応じた指導を充実させるため、取組を継続し、専門性の更なる向上に努めてほしい。	平成32年度からの新学習指導要領完全実施に向け教育課程の整備を適切に行うとともに、校内外の研修をととして教職員の専門性向上に積極的に取り組む。

2	・キャリア教育の視点を生かした指導の充実	①県特別支援学校技能検定発表会への参加 ②近隣施設における体験活動の実施	おおむね達成 ・生徒の意識が高まり、授業への取組意識のみならず将来の自立や社会参加に関する意識が高まった。	B	早期から児童生徒や保護者の進路意識を喚起するとともに、引き続き関係機関と連携し、丁寧な進路指導を進めてほしい。	小中高の一貫した進路指導の充実に向け各学部における活動の充実を図るとともに、10月25日の大会に向け授業における取り組みを継続する。
3	・地域との連携による特別支援教育の推進	①就労・支援ネットワーク連絡協議会の開催 ②教育相談による小中学校等への支援	おおむね達成 ・むつ下北地域の特別支援教育の拠点として、関係機関と連携した取組が行われた。	B	保護者や小中学校特別支援学級担当者の意識啓発を促すため、当事者が参加できるような内容の検討が必要である。	ネットワーク参加事業所の拡充や小中学校との連携強化のため、各連絡協議会の内容の充実を図る。
4	・交流及び共同学習の推進	①地域の保育園、小・中・高校及び近隣住民との交流活動の実施 ②居住地校交流の実施	おおむね達成 ・継続して取り組んでいることに加え、障害者スポーツを取り入れることにより、従来の内容をさらに充実させることができ、相互理解の深まりが見られた。	B	居住地校交流に引き続き取り組むほか、近隣施設における交流活動を小学部から行うなどにより取組の充実を図ってほしい。	従来の取組に加え、児童生徒の発達の段階に応じた新たな取組を検討するとともに、関係校や市町村教育委員会との連絡調整を適切に行い、内容の充実を図る。
5	・生涯スポーツの振興	①クラブ活動・部活動の実施 ②県障害者スポーツ大会への参加	おおむね達成 ・児童生徒の運動への関心が高まり、大会参加者及び入賞者数ともに昨年度を上回った。	B	就労に必要な体力作りとしてだけでなく、地域のサークル活動を利用するなど、余暇の充実を観点とした取組を進めてほしい。	身体的な健康の保持増進との観点に余暇活動や心理的精神的な安定との側面を加え、授業における取組を継続するとともに、保護者への理解啓発を図る。

(11)総括	保護者及び教職員ともに評価点4及び3の項目が9割以上であること、昨年度から評価を下げた項目が教職員1項目、保護者6項目であることなどから、今年度の教育活動についてはおおむね良好な評価をいただいており、引き続き教育活動を充実させていく必要がある。 保護者は、「子ども本人」と「保護者自身」の満足度を低く捉えており、教職員は「子ども本人の満足度」に比べ「保護者の満足度」を低くとらえていることから、保護者の安心感につながるよう活動の充実に努める必要がある。 学校運営については、緊急事態への対応や教職員の業務について、改善に関する具体的な検討を行い、適切に周知する必要がある。
--------	---